

総括



海の大花火大会（柏崎市民一同）

1 位置及び地勢

当消防本部は、柏崎市、刈羽郡刈羽村及び三島郡出雲崎町の1市1町1村を管轄する新潟県のほぼ中央に位置し、東は長岡市に、南は十日町市に、南西は上越市にそれぞれ接し、北西部は日本海に面している。

地形は、県内外にその名が知られている鯨波・番神・石地などの海水浴場を有する変化に富んだ海岸線と、南西から東部一帯にかけては米山・黒姫山・八石山に続き、北東部は西山連峰の山岳丘陵地に囲まれ、日本海に注ぐ河川は、鯖石川、鯖石川支流の別山川、鶴川及び島崎川に大別され、この河川流域に大小の平野が開けている。

気候は、このような地形から年間を通じては比較的温暖であるが、冬季は北西の季節風が吹き荒れ、海岸沿いを除き山間部の大半は豪雪地帯である。

交通面では北陸自動車道・国道8号・116号・252号・291号・352号・353号・402号が管内を縦横に走っている。

柏崎市から県都新潟市までは約80キロメートル、関東方面へは北陸自動車道から長岡ジャンクションで関越自動車道につながり、首都東京までは約300キロメートルの位置にある。

また、当地方は古くは宮川油田、刈羽油田、西山油田などで知られたエネルギーの供給地域であり、現在は電力供給基地として柏崎刈羽原子力発電所がある。

位置（消防本部）	東経138度34分	北緯37度21分
管轄面積	512.70km ²	

2 柏崎消防の沿革

柏崎消防の沿革については、明治4年に自身番を廃し、火防組を編成した記録に始まり、明治35年4月17日火防組を公設消防組に改組したが、その後結成された柏崎町消防後援隊及び柏崎町防護団とともに、警防団令公布により昭和14年3月31日に廃止し、昭和14年4月1日柏崎町警防団が設置された。

昭和15年6月15日柏崎町警防団に常備消防部が設置され、同年7月1日市制施行となり柏崎市警防団常備消防部と改称し、昭和22年12月消防団令の公布により柏崎市消防団常備消防部に改組した。

昭和23年3月7日消防組織法の施行により、昭和24年7月1日自治体消防として柏崎市消防本部及び消防署に改称し、その後昭和46年4月1日関係市町村により消防事務を共同処理する事務組合を設立したが、平成の大合併で平成17年4月30日同組合を解散、5月1日より名称を柏崎市消防本部に変更し、今日に至っている。

.....◇.....◇.....◇.....

			明治
4 (1871) 年		自身番を廃止し、火防組を編成する。6組 人員約80人	
35 (1902) 年	4月	火防組を消防組（公認）に改組	
45 (1912) 年		火防対策充実する	
		1 消防組の編成を組頭以下187人、4部に組織する	
		2 消防機械器具	
		(1)改良両口ポンプ 1台	
		(2)ハンドポンプ 2台	
			大正
3 (1914) 年		消防組改良3号型蒸気ポンプ1台購入	
4 (1915) 年	11月	消防後援隊結成 人員480余人	
			昭和
5 (1930) 年	11月	柏崎町消防組現有状況	
		10部隊376人、消防ポンプ自動車2台、蒸気ポンプ1台	
		ガソリンポンプ5台、腕用ポンプ2台、各隊に破壊器具	
9 (1934) 年	7月	柏崎町防護団結成	

14 (1939) 年	4月	柏崎町警防団結成 警防団令（1月24日勅令第20号）公布により消防組を廃止し、柏崎町警防団を結成する。参加人員600余人
15 (1940) 年	6月	柏崎町警防団に常備消防部を創設、部長以下14人、消防ポンプ自動車2台で発足
	7月	市制施行に伴い、柏崎市警防団常備消防部に改称
	9月	常備消防部庁舎竣工（現西本町三丁目）
22 (1947) 年	12月	消防団令（4月30日勅令第185号）公布により柏崎市警防団を柏崎市消防団に改組消防団長以下319人、本部・常備消防部・工作部のほか6ヶ分団で組織
23 (1948) 年	10月	常備消防部消防ポンプ自動車1台購入、部員10人増員し、懸案の2台同時出動を達成する（現員26人、予備員6人）
24 (1949) 年	3月	柏崎市消防本部及び消防署設置条例を制定
	7月	昭和23年3月7日消防組織法（昭和22年12月23日法律第226号）の施行により、自治体消防として警察機構から分離独立し、常備消防部を柏崎市消防本部及び消防署に改称、消防長以下29人、消防ポンプ自動車3台で発足
	7月	柏崎市火災予防条例及び柏崎市危険物取締条例を制定
	8月	消防本部・消防署開庁式
	9月	職員定数29人となる（非常勤職員除く。以下同じ）
	11月	職員定数34人となる
	12月	消防本部・消防署庁舎増改築竣工
25 (1950) 年	6月	消防署長公舎竣工
	12月	職員定数35人となる
29 (1954) 年	4～5月	職員定数38人となる
31 (1956) 年	11月	消防用中短波無線局開局
34 (1959) 年	4月	職員定数41人となる
	6月	職員定数44人となる
35 (1960) 年	7月	普通消防ポンプ自動車、日本損害保険協会から寄贈
	7月	第11回新潟県消防大会
40 (1965) 年	6月	日本赤十字社新潟県支部から救急車の貸与を受け、本格的な救急業務を開始
	7月	職員定数47人となる
	12月	化学消防ポンプ自動車配備
44 (1969) 年	8月	職員定数52人となる
45 (1970) 年	3月	屈折はしご付消防ポンプ自動車配備
	4月	職員定数59人となる
	7月	柏崎市消防本部・消防署庁舎を大字茨目（現三和町）に新築開設し、旧庁舎を分署に改称
	10月	柏崎地域1市3町1村で広域救急業務を開始 （柏崎市・北条町・高柳町・刈羽村・西山町）
46 (1971) 年	4月	新潟県指令第1173号により組合の設立について新潟県知事の許可があり柏崎市・刈羽郡北条町・高柳町・刈羽村・西山町及び三島郡出雲崎町の1市4町1村をもって消防事務のうち常備消防事務を共同処理する「新潟県柏崎地域消防事務組合」を発足
	5月	北条町が柏崎市に合併し、消防事務は1市3町1村となる
	6月	消防用超短波無線局を開局
	7月	西本町分署を第1分遣所に改称
	7月	柏崎市で第3回都市消防レンジャー技術競技大会
47 (1972) 年	1月	職員定数73人となる
	3月	出雲崎町大字川西に第2分遣所を開設、消防業務を開始する
	3月	消防署車庫増築
	4月	職員定数94人となる
	5月	高柳町大字岡野町に第3分遣所を開設、消防業務を開始する
48 (1973) 年	1月	救助工作車配備
	4月	職員定数100人となる
49 (1974) 年	3月	消防救急指令装置を設置
	7月	救助隊を整備、本格的な救助業務を開始する
	9月	第1回自衛消防隊消防研究会開催
	12月	泡放射砲車を新潟県から貸与
51 (1976) 年	4月	新潟県柏崎地域広域事務組合を設立、1市4町1村の広域事務のうち消防事務は1市3町1村で共同処理

51 (1976) 年	4月	新潟県消防学校へ教官職員の派遣（昭和52年3月31日まで）
52 (1977) 年	11月	普通消防ポンプ自動車、日本損害保険協会から寄贈
53 (1978) 年	1月	第1分遣所庁舎改築
54 (1979) 年	1月	県波増波
	4月	柏崎地域の常備消防事務に小国町が加わり1市4町1村の広域消防となる
	4月	職員定数108人となる
55 (1980) 年	4月	職員定数122人となる
	4月	小国町大字法坂に第4分遣所を開設、消防業務を開始する
	9月	旧西山町立北野小学校跡に第5分遣所を開設、消防業務を開始する
	9月	北陸自動車道の供用開始に伴い高速自動車道での消防業務を開始する
	11月	西山町大字北野に第5分遣所庁舎を建設、移転し消防業務を開始する
56 (1981) 年	4月	職員定数129人となる
	4月	新潟県消防学校に教官職員の派遣（昭和57年3月31日まで）
57 (1982) 年	5月	「原子力発電所等所在市町村消防情報連絡会」発足
	6月	消防本部・消防署庁舎増築（南棟）
	11月	北陸自動車道柏崎～米山間開通
	12月	32メートルはしご付消防ポンプ自動車配備
58 (1983) 年	8月	気象観測装置を設置
	11月	北陸自動車道米山～柿崎間開通
	8月	分遣所の名称を変更
	9月	西本町分遣所車庫新築
59 (1984) 年	4月	新潟県消防学校へ教官職員の派遣（昭和60年3月31日まで）
	11月	出雲崎分遣所庁舎増築
61 (1986) 年	1月	鉄筋コンクリート6階建訓練塔新築
	10月	小国分遣所 救急自動車更新（4WD救急車新規採用）
	12月	消防本部・消防署敷地整備（アスファルト舗装）
62 (1987) 年	2月	消防救急指令装置更新（NEC・FD-301EⅡ型）
	2月	救助工作車更新
	7月	消防本部・消防署冷暖房設備工事（自家変電設備・変電室建屋工事）
	8月	水槽付消防ポンプ自動車、日本損害保険協会から寄贈
	12月	出雲崎分遣所救急自動車更新（4WD2B型）
	12月	広報車、新潟県から貸与
63 (1988) 年	3月	消防指令車更新（ニッサンセドリック）
	4月	新潟県消防学校へ教官職員の派遣（平成元年3月31日まで）
	10月	救急輸送車（トヨタコースター）柏崎グリーンスタンプ会から寄贈
	12月	消防本部・消防署車庫増築工事（北側）
	12月	消防本部・消防署危険物貯蔵庫改築工事
	12月	高柳分遣所増築工事

元 (1989) 年	2月	西山分遣所救急自動車更新（ニッサンキャラバン2B型）
	4月	職員現員数129人
	5月	貨客兼用自動車更新（スズキエブリー4WD）
	7月	消防署救急自動車更新（トヨタハイエース2B型）
	9月	消防署救急自動車更新（トヨタハイエース2B型）日本赤十字社から委託
	10月	西本町分遣所救急自動車更新（トヨタハイエース2B型）
	11月	西本町分遣所はしご付消防ポンプ自動車更新 （いすゞフォワードA2級15m級）
2 (1990) 年	4月	職員定数131人となる
	4月	職員現員数131人
	10月	小国分遣所訓練場舗装工事
	11月	西本町分遣所消防ポンプ自動車更新（三菱ふそうCD-I型）
	11月	高柳分遣所無線基地・固定局工事更新
	12月	西本町分遣所化学消防ポンプ自動車更新（日野レンジャーⅡ型）
3 (1991) 年	4月	職員定数133人となる
	4月	職員現員数132人
	12月	消防署小型動力ポンプ付水槽車（日野クルージング）配備
	12月	出雲崎分遣所消防ポンプ自動車更新（三菱ふそうCD-I型）
4 (1992) 年	4月	職員現員数133人
	4月	新潟県消防学校へ教官職員の派遣（平成5年3月31日まで）
	6月	消防本部連絡車更新（スズキキャリー4WD）

4 (1992) 年	7月	高柳分遣所救急自動車更新 (ニッサンキャラバン)
	11月	西山分遣所消防ポンプ自動車更新 (三菱ふそうCD-I型)
5 (1993) 年	4月	職員現員数133人
	10月	消防本部連絡車更新 (ニッサンADワゴン)
	12月	高柳分遣所消防ポンプ自動車更新 (三菱ふそうCD-I型)
	12月	ホース乾燥庫新築
6 (1994) 年	1月	出雲崎分遣所仮眠室改築工事
	4月	職員定数139人となる
	4月	職員現員数139人
	9月	消防署貨客兼用自動車更新 (トヨタダイナ)
	10月	初の救急救命士養成のため救急救命東京研修所に職員派遣 (1人)
	10月	小国分遣所救急自動車更新 (トヨタハイエース)
	11月	高度応急処置用資機材整備 (小国分遣所)
	12月	消防本部消防指令車更新 (三菱エテルナE)
	12月	消防無線 (救急波) 施設整備工事
7 (1995) 年	1月	消防本部非常用発電設備工事
	1月	兵庫県南部地震 (阪神・淡路大震災) 発生
		消防組織法第24条の3に基づき、神戸市へ救急隊1隊3人応援派遣
	4月	職員現員数139人
	6月	緊急消防援助隊創設 消火部隊1隊登録
	9月	西本町分遣所第二車庫外壁張替工事
	10月	小国分遣所無線基地・固定局更新工事
	11月	高度応急処置用資機材整備 (西本町分遣所)
	12月	小国分遣所及び出雲崎分遣所排水 (下水道) 設備工事
8 (1996) 年	1月	消防署化学消防ポンプ自動車更新 (三菱ふそう5tディーゼル)
	1月	消防署救急自動車更新 (高規格救急自動車) (いすゞスーパーメディック)
	1月	広報車更新、新潟県から貸与
	3月	救急救命士教育用資機材整備
	3月	高規格救急自動車運用開始
	3月	救急業務高度化体制の開始
	4月	職員現員数139人
	4月	新潟県消防学校へ教官職員の派遣 (平成9年3月31日まで)
	6月	消防署船外機付救命ボート更新 (アキレスSU-14、ヤマハ30DM)
	7月	高度応急処置用資機材整備 (9項目)
	8月	出雲崎分遣所救急自動車更新 (トヨタハイエース2B改良型)
	9月	緊急連絡用システム整備 (職員招集等連絡網)
	10月	消防組織法の規定に基づく消防職員委員会が発足
	10月	小国分遣所除雪機更新 (フジイ)
	10月	耐電トランス整備 (落雷による過電流防止)
	12月	蒲原沢土石流災害発生
		緊急消防援助隊 2隊10人応援派遣
9 (1997) 年	1月	小国分遣所消防ポンプ自動車更新 (三菱ふそうCD-I型)
	2月	消防本部連絡車更新 (三菱リベロカーゴE)
	3月	消防署消防ポンプ自動車更新 (日野レンジャーCD-II型)
	3月	西本町分遣所屋上防水工事
	3月	鉄筋コンクリート造2階建訓練塔副塔新築 (防災資器材倉庫兼用)
	4月	職員現員数138人
	4月	新潟県消防防災航空隊に職員派遣 (平成11年3月31日まで)
	8月	運輸大臣から感謝状を授与 (ナホトカ号重油流出事故活動)
	10月	西山分遣所訓練場舗装工事
	11月	西山分遣所救急自動車更新 (トヨタグランビア高規格型)
	11月	西本町分遣所救急自動車更新 (トヨタグランビア高規格型)
	12月	西本町分遣所消防ポンプ自動車更新 (三菱ふそうCD-I型)
10 (1998) 年	4月	職員現員数138人
	10月	消防署救急自動車更新 (トヨタグランビア高規格型)
	11月	出雲崎分遣所庁舎外壁改修工事
11 (1999) 年	3月	消防緊急通信指令施設II型整備工事
	3月	消防緊急通信指令施設発信地表示装置整備工事
	3月	消防署救助工作車更新 (三菱ふそうII型)

11 (1999) 年	4月	職員現員数138人
	7月	消防本部・署発足50周年式典を挙行
	12月	消防署消防指令車更新(トヨタカムリグラシア)
12 (2000) 年	4月	職員現員数138人
	8月	出雲崎分遣所無線基地・固定局更新工事
	10月	高柳分遣所救急自動車更新(トヨタグランビア高規格型)
	12月	消防署水槽付消防ポンプ自動車更新(日野レンジャーⅡ型)
13 (2001) 年	4月	職員現員数138人
	8月	火災原因調査車更新(トヨタハイエース)
14 (2002) 年	4月	職員現員数138人
15 (2003) 年	3月	消防本部・署庁舎東棟、危険物貯蔵庫改築及び北棟・南棟改修工事
	4月	職員現員数138人
	7月	西本町分遣所救急自動車、高規格運用開始
16 (2004) 年	1月	旧32メートルはしご付消防ポンプ自動車をタイ国パヤオ市に贈呈
	2月	30メートル級はしご自動車更新(日野KL-PR4FPHF 先端屈折式)
	4月	職員現員数138人
	4月	緊急消防援助隊 消防組織法改正による法制化
	7月	新潟・福島豪雨発生 「新潟県広域消防相互応援協定」に基づき、三条市へ4隊17人応援派遣
	10月	新潟県中越地震発生 「新潟県広域消防相互応援協定」に基づき、小千谷市へ15隊55人応援派遣
	10月	消防署消防ポンプ自動車更新(日野デュトロCD-I型)
	11月	消防署特殊災害救助車配備(いすゞフォワード)
17 (2005) 年	3月	組合構成市町村の小国町が、3月31日新潟県柏崎地域広域事務組合から脱退(長岡市と合併)
	4月	職員現員数138人
	4月	組合構成市町村であった小国町が長岡市との合併に伴い、消防力維持のため長岡市へ職員派遣(平成17年4月1日から平成19年3月31日まで12人、平成19年4月1日から平成20年3月31日まで6人)
	4月	新潟県柏崎地域広域事務組合が4月30日解散
	5月	組合構成市町村であった高柳町、西山町が柏崎市に編入合併され、名称を「柏崎市消防本部及び消防署」に変更。刈羽村、出雲崎町は、柏崎市が事務委託を受ける
	5月	庶務課を総務課に課名変更、合わせて消防団事務を開始
18 (2006) 年	4月	職員定数142人となる
	4月	職員現員数140人
	4月	新潟県消防学校へ教官職員の派遣(平成20年3月31日まで)
	7月	消防署救急輸送車更新(ニッサンシビリアン)
	10月	消防ポンプ自動車をタイ国に贈呈
	12月	消防署高規格救急車更新(トヨタハイエース)
19 (2007) 年	4月	職員現員数142人
	4月	消防力の基準等の一部改正に伴い、指揮隊を整備
	7月	7月16日10時13分、震度6強の新潟県中越沖地震発生 応援隊として「新潟県広域消防相互応援協定」に基づき、県内18消防本部から延べ218隊、883人(応援期間7月16日～7月28日)、緊急消防援助隊消防防災航空隊11隊(応援期間7月16日～7月23日)の応援を受ける
	11月	出雲崎分遣所救急車更新(トヨタハイエース)
20 (2008) 年	4月	女性消防吏員初採用
	4月	職員現員数139人
	6月	岩手・宮城内陸地震発生 緊急消防援助隊 一関市へ1隊3人を派遣
	7月	東庁舎に女性用仮眠室を整備
	11月	西山分遣所高規格救急車更新(トヨタハイエース)
21 (2009) 年	4月	職員現員数141人
	4月	新潟県消防防災航空隊に職員派遣(平成23年3月31日まで)
	11月	西本町分遣所高規格救急車更新(トヨタハイエース)
22 (2010) 年	3月	消防署広報車兼資機材搬送車更新、新潟県から貸与(トヨタヴォクシー)
	3月	西本町分遣所消防ポンプ自動車更新(日野デュトロCD-I型)
	4月	職員定数145人となる
	4月	職員現員数141人

22 (2010) 年	7月	業務車更新 (スズキパレット)
	7月	西山分遣所化学消防ポンプ自動車配備 (日野レンジャーⅡ型)
	8月	消防署消防指令車更新 (スズキランディー)
	9月	消防署高規格救急車更新 (トヨタハイエース)
23 (2011) 年	1月	西本町分遣所15メートル級はしご付消防ポンプ自動車更新 (日野レンジャー)
	3月	消防緊急通信指令施設部分更新
	3月	東北地方太平洋沖地震 (東日本大震災) 発生 緊急消防援助隊 石巻市へ22隊53人を派遣
	4月	職員現員数138人
	4月	高柳分遣所庁舎移転 (高柳町事務所併設)
	4月	西山分遣所庁舎移転 (西山町事務所併設)
	7月	平成23年7月新潟・福島豪雨発生 「新潟県広域消防相互応援協定」に基づき、三条市に1隊5人応援派遣
	10月	高柳分遣所高規格救急車更新 (トヨタハイエース)
	1月	西山分遣所水槽付消防ポンプ自動車更新 (日野デュトロCD-I型)
	1月	出雲崎分遣所水槽付消防ポンプ自動車更新 (日野デュトロCD-I型)
24 (2012) 年	4月	職員現員数143人
	5月	南魚沼市八箇峠トンネル内爆発事故発生 「新潟県広域消防相互応援協定」に基づき、南魚沼市へ2隊10人を派遣
	8月	消防署業務車更新 (トヨタライトエース)
	11月	消防署貨客兼用自動車更新 (三菱キャンター)
	11月	高柳分遣所水槽付消防ポンプ自動車更新 (日野デュトロCD-I型)
	3月	西本町分遣所化学消防ポンプ自動車更新 (日野レンジャーⅡ型)
	4月	総務課を消防総務課に課名変更
	4月	職員現員数144人
	7月	消防救急デジタル無線整備工事開始 (3箇年継続事業)
	9月	ホイールローダ配備
25 (2013) 年	11月	南棟漏水工事
	12月	南棟外壁塗装改修工事
	1月	消防署小型動力ポンプ付水槽車更新 (日野レンジャー)
	1月	下水道改修工事
	2月	北棟外部鉄骨階段塗装改修工事
	3月	西山分遣所仮眠室増設工事
	3月	消防救急デジタル無線工事一部履行 (消防本部、西本町分遣所、高柳分遣所、市役所)
	4月	再任用制度運用開始
	4月	職員現員数148人 (再任用職員4人含む)
	8月	旧化学消防ポンプ自動車をベトナム社会主義共和国に寄贈
26 (2014) 年	8月	消防本部・消防署ガスヒートポンプエアコン室外機 (No.1) 修繕
	8月	陽圧式化学防護服一式 (2着) 更新
	11月	旧小型動力ポンプ付水槽車をフィリピン共和国に贈呈
	12月	消防本部・消防署シャワー室改修工事 (女性専用シャワー室整備)
	2月	消防本部・消防署屋外物置外装改修工事
	3月	消防署多機能型水槽付消防ポンプ自動車更新 (日野レンジャーI-A型)
	3月	消防救急デジタル無線工事一部履行 (西山分遣所)
	4月	職員現員数149人 (再任用職員7人含む)
	9月	関東・東北豪雨発生 緊急消防援助隊 常総市へ2隊6人を派遣
	9月	北棟外壁・屋上防水改修工事
27 (2015) 年	11月	消防署指令車更新 (トヨタハイエース)
	1月	出雲崎分遣所新庁舎へ移転
	3月	消防署高規格救急車更新 (トヨタハイエース)
	3月	消防救急デジタル無線整備工事完了 (3箇年継続事業)、運用開始
	4月	職員現員数152人 (再任用職員7人含む)
	4月	初の指導救命士養成のため救急救命九州研修所に職員派遣 (1人)
	10月	西山分遣所高規格救急車更新 (トヨタハイエース)
	12月	消防本部・消防署庁舎東棟外壁改修工事
	12月	糸魚川市大規模火災発生 「新潟県広域消防相互応援協定」に基づき、糸魚川市へ3隊24人を派遣
28 (2016) 年	3月	西分署竣工、西本町分遣所の機能を西分署に移転し仮運用開始
	3月	消防署電気自動車 日産自動車より貸与 (e-NV200) (令和2年3月買取)

29 (2017) 年	4月	職員現員数151人（再任用職員7人含む）
	4月	西分署運用開始
	4月	組織機構変更により、消防本部警防課を新たに設置
	4月	柏崎総合医療センターと「大規模災害等における柏崎総合医療センターDMATと柏崎市消防本部の連携に関する協定」を締結
	4月	柏崎地区生コンクリート組合と「災害時における消防用水の搬送に関する協定」を締結
	9月	消防本部火災原因調査車更新（トヨタハイエース）
	11月	西分署水槽付消防ポンプ自動車更新（日野デュトロCD-I型）
	11月	避難指示区域 大規模火災対応訓練
	11月	学生消防団員入団式（男性3人 女性2人）
	11月	柏崎総合医療センターへ救急車寄贈（DMAT車両）
	11月	柏崎市消防長による「ハラスメント防止宣言」
	12月	出雲崎分遣所高規格救急車更新（トヨタハイエース）
30 (2018) 年	4月	新潟県消防学校へ教官職員の派遣（令和2年3月31日まで）
	4月	職員定数155人
	4月	職員現員数153人（再任用職員5人含む）
	9月	北海道胆振東部地震発生 「大規模災害等における柏崎総合医療センターDMATと柏崎市消防本部の連携に関する協定」に基づき、札幌市、苫小牧市へ職員2人を派遣
	10月	柏崎ライオンズクラブから無人航空機（ドローン）2機が寄贈される
	11月	西分署高規格救急車更新（トヨタハイエース）
	12月	新潟県消防学校へ救急車寄贈
31 (2019) 年	2月	高機能消防指令センター部分更新（コンピューター機器）
	2月	車両動態位置管理システム導入
	4月	機能別消防団発足（消防職員OB20人）
	4月	職員現員数156人（再任用職員7人含む）

元 (2019) 年	6月	山形県沖地震発生 「大規模災害等における柏崎総合医療センターDMATと柏崎市消防本部の連携に関する協定」に基づき、村上市へ職員2人を派遣
	10月	台風第19号による災害発生 緊急消防援助隊 長野市へ4隊16人を派遣
	11月	北陸瓦斯株式会社と「火災予防啓発の連携に関する協定」を締結
2 (2020) 年	11月	消防署高規格救急車更新（トヨタハイエース）
	3月	消防署救助工作車更新（日野レンジャーII型）
	3月	旧救助工作車を国際協力のため、一般社団法人日本外交協会へ無償譲渡
	3月	消防本部・消防署駐車場融雪施設改修工事
	4月	職員現員数154人（再任用職員6人含む）
	4月	緊急消防援助隊 救助小隊1隊追加
3 (2021) 年	4月～	新型コロナウイルスパンデミックによる感染予防対策の強化
	12月	訓練塔改修工事（外壁、建具、訓練用梯子）
	1月	柏崎市豪雪災害対策本部設置 災害救助法適用（自衛隊派遣要請）
	3月	西分署水槽付消防ポンプ自動車更新（日野レンジャーII型）
	4月	職員現員数156人（再任用職員7人含む）
	4月	新潟県消防防災航空隊に職員派遣（令和6年3月31日まで）
	4月	緊急消防援助隊 消火小隊1隊追加
	4月	旧水槽付消防ポンプ自動車を国際協力のため、一般社団法人日本外交協会へ無償譲渡
4 (2022) 年	9月	中村石油株式会社と「災害時における石油燃料供給に関する協定」を締結
	1月	消防本部地中熱空調設備設置
	4月	職員現員数155人（再任用職員6人含む）
	4月	原子力規制庁に職員派遣（令和6年3月31日まで）：割愛退職
	7月	Net119緊急通報システム 共同運用開始
5 (2023) 年	12月	柏崎市豪雪災害対策本部設置 災害救助法適用（自衛隊派遣要請）
	3月	高機能消防指令センター部分更新（指令台）
	4月	職員現員数156人（再任用職員10人含む）
	～5月	新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴い、感染予防対策を緩和
	12月	消防本部空調設備（GHP1号機）入替工事完了

6 (2024) 年	1月	能登半島地震発生 緊急消防援助隊 鳳珠郡能登町へ7隊26人を派遣 「大規模災害等における柏崎総合医療センターDMATと柏崎市消防本部の 連携に関する協定」に基づき、七尾市へ職員2人を派遣
	1月	消防署消防指令車更新（三菱デリカD:5）
	4月	職員現員数153人（再任用職員7人含む）
	4月	原子力規制庁に職員派遣（令和9年3月31日まで）：割愛退職
	7月	Live119映像通報システム 運用開始
	12月	消防本部空調設備（GHP2号機）入替工事完了
7 (2025) 年	2月	大船渡市林野火災発生
	(3月)	緊急消防援助隊 大船渡市へ4隊25人を派遣
	3月	高柳分遣所高規格救急車更新（トヨタハイエース）
	3月	高機能消防指令センター部分更新（コンピューター機器）
	4月	職員現員数157人（再任用職員3人含む）

3 歴代消防長

(1) 柏崎市消防本部（昭24. 6. 29～昭46. 3. 31）

歴 代	氏 名	就 任	退 任	備 考
初 代	前 川 謙 治	昭24. 6. 29	昭26. 5. 10	助役事務取扱
二 代	関 憲 治	昭26. 5. 11	昭34. 5. 11	〃
三 代	吉 浦 栄 一	昭34. 5. 12	昭37. 9. 30	市長事務取扱
四 代	五十嵐 信	昭37. 10. 1	昭38. 12. 31	
五 代	山 田 重 行	昭39. 1. 1	昭45. 1. 31	
六 代	小 林 治 助	昭45. 2. 1	昭46. 3. 31	市長事務取扱

(2) 新潟県柏崎地域消防事務組合消防本部（昭46. 4. 1～昭51. 3. 31）
新潟県柏崎地域広域事務組合消防本部（昭51. 4. 1～平17. 4. 30）

歴 代	氏 名	就 任	退 任	備 考
初 代	小 林 治 助	昭46. 4. 1	昭50. 6. 30	管理者柏崎市市長事務取扱
二 代	松 崎 三 作	昭50. 7. 1	昭54. 1. 31	
三 代	小 林 治 助	昭54. 2. 1	昭54. 4. 29	管理者柏崎市市長事務取扱
四 代	今 井 哲 夫	昭54. 4. 30	昭54. 6. 30	〃
五 代	中 村 四 郎	昭54. 7. 1	昭57. 3. 31	
六 代	黒 崎 賢 司	昭57. 4. 1	昭59. 3. 31	
七 代	村 田 精 一	昭59. 4. 1	平 3. 3. 31	
八 代	原 俊 朗	平 3. 4. 1	平 6. 3. 31	
九 代	小 林 一 彦	平 6. 4. 1	平10. 3. 31	
十 代	西 巻 一 也	平10. 4. 1	平12. 3. 31	
十一代	内 山 俊 彦	平12. 4. 1	平16. 3. 31	
十二代	前 澤 尚 之	平16. 4. 1	平17. 4. 30	

(3) 柏崎市消防本部（平17. 5. 1～）

歴 代	氏 名	就 任	退 任	備 考
初 代	前 澤 尚 之	平17. 5. 1	平18. 3. 31	
二 代	大 島 修	平18. 4. 1	平20. 3. 31	
三 代	前 澤 泰 男	平20. 4. 1	平21. 3. 31	
四 代	須 田 正 明	平21. 4. 1	平22. 3. 31	
五 代	須 田 静 男	平22. 4. 1	平24. 3. 31	
六 代	赤 堀 稔	平24. 4. 1	平26. 3. 31	
七 代	駒 野 龍 夫	平26. 4. 1	平29. 3. 31	
八 代	近 藤 尚 文	平29. 4. 1	令 2. 3. 31	
九 代	池 田 和 利	令 2. 4. 1	令 4. 3. 31	
十 代	山 崎 豊	令 4. 4. 1	令 5. 3. 31	
十一代	小 林 晴 久	令 5. 4. 1	令 7. 3. 31	
十二代	浅 野 勝 則	令 7. 4. 1		

4 面積・人口・世帯数及び管内図

市町村名	面積 (km ²)	令和7(2025)年4月1日		令和6(2024)年4月1日		前年比	
		人口	世帯数	人口	世帯数	人口	世帯数
柏崎市	442.02	75,627	34,565	76,877	34,638	△ 1,250	△ 73
刈羽村	26.27	4,207	1,649	4,262	1,612	△ 55	37
出雲崎町	44.41	3,831	1,628	3,955	1,661	△ 124	△ 33
計	512.70	83,665	37,842	85,094	37,911	△ 1,429	△ 69

※面積は、令和6年10月1日現在の国土交通省国土地理院公表の数値

※人口及び世帯数は、当該年3月31日現在の住民基本台帳及び外国人登録法に基づく数値

